

銀行借入の 実務と交渉法

必要書類の整え方から、相手を知り
折衝を有利にするテクニクまで

澤村 裕著



銀行借入の 実務と交渉法

必要書類の整え方から、相手を知り
折衝を有利にすすめるテクニックまで

澤村 裕著

澤村 裕 (さわむら ひろし)

昭和4年東京生まれ。昭和28年一橋大学卒業後、ジュジュ化粧品(株)に入社。経理畑ひとすじに三十年、現在は同社取締役経理部長。第一線の幅広い経験に裏づけられた銀行借入の実践論は、实际的で、わかりやすいとの定評がある。

著書としては、『銀行取引の勘どころ』(中央経済社)などがある。

銀行借入の実務と交渉法 定価 1100円

昭和56年6月20日 初版発行

著者 澤村 裕
発行者 中村 進
発行所 株式会社 日本実業出版社

東京都千代田区三崎町3の5の3 ☎ 101
☎代表 03 (264) 3781 振替東京 7-25349
大阪市北区西天満6の8の1 ☎ 530
☎代表 06 (362) 6141

印刷所 壮光舎印刷株式会社
製本所 株式会社 若林製本工場

A1800 落丁、乱丁本はお取替え致します
©H. Sawamura 1981
ISBN4-534-00682-9 C2063 ¥1100E

はじめに

銀行とのつきあいはかれこれ三十年近くになる私ですが、こんな私でさえ、借入れの申込みにゆくときにはかなり緊張し、銀行の敷居をとても高く感じます。

まして、銀行と取引を始めてまだ日の浅い方や、これから取引を始めようとされている方にとって、銀行はゆきにくいところの一つに違いありません。預金をするときは何も感じないのに、借入れをするのには何か引け目を感じてしまうものなのです。

では、もっと気軽に借入申込みに出かけられるにはどうしたらよいでしょうか。

まず、銀行に強くなり、親しみを抱くことです。それには、金融の知識と銀行の内部事情に詳しくなることが第一だと思えます。

そして、銀行の機構や融資の基準、支店長や貸付担当者の立場とかものの考え方が少しでも理解できれば、銀行は決してゆきにくいところではなくなるはずです。

本書は、これらのことを探りながら実際の借入実務と交渉のコツとでもいうべきものを述べ、少しでも、こうした実務に携わる方々のお役に立てばと念願して執筆したものであります。

しかし、改めて読み直してみると、私の不勉強と金融機関の部外者であるがために、尽くしえな

い部分も少なくありません。また、配慮のゆきとどかなかった箇所も多いと思います。これらは、読者のご叱正をいただいて逐次補正してゆきたいと考えております。

なお本書は、金融関係の本をはじめて読まれる方でも理解しやすいよう、平易に述べたつもりであります。順序にこだわらず、必要な項目、わかりやすいところから読み始めてください。なにはともあれ、読み通して、上手に活用していただければ、あなたはひとかどの銀行通になり、少なくとも今までよりは気楽に、借入交渉に出かけられるようになると思います。

終わりに、きわめてご多忙のところ、本書の出版にお骨折りをいただきました日本実業出版社の斉藤矩次編集長および同編集部田島清志氏をはじめ数多くの方々に、深甚なる謝意を表する次第であります。

昭和五十六年五月

澤村 裕

1 章 金融の潮流の流れを把握する

1 金融情勢はどのように捉えたらよいか……………14

[1] 金融の潮流を見きわめる 14

[2] 資金需給をどう判断するか 20

[3] 金融市場変動のバターンとは 22

① 月中変動／22

② 季節変動／22

③ 景気変動／24

④ 経

済成長による変動／26

2 金融関連指標の見方……………27

- [1] 資金需給状況と手元流動性の見方 28
- [2] 企業間信用の拡大をどう見るか 31
- [3] 企業の資金繰り判断をどう見るか 32

2 章 銀行内部の人としくみを考える

1 銀行の組織を解剖する……………36

- [1] 銀行という組織のアウトライン 36
- [2] 支店の中はどんなしくみになっているのか 41

2 銀行員という職業を解剖する……………48

- [1] 新入行員から支店長までの道程 48
- [2] 最前線の権力者——支店長の研究 53
- [3] 支店長と次長の関係をどう見るか 57

3章 貸出しのしくみと融資する側の考え方

1 貸出しの五原則を心得ておく……………62

- [1] 安全性の原則への対応は 63
- [2] 収益性の原則への対応は 64
- [3] 発展性の原則への対応は 65
- [4] 公共性の原則への対応は 67
- [5] 流動性の原則への対応は 68

2 貸出し決定までの道筋はどうなっているのか……………70

- [1] 審査部の役割に注目 70
- [2] 審査部の機構もかわってきた 72
- [3] 貸出しの手順はこうになっている 73
- [4] 審査する側の着眼点は 76

3 貸出しの種類にはどんなものがあるか.....78

[1] 勘定科目でみた貸出しの種類 78

- ① 手形貸付／80 ② 証書貸付／83 ③ 当座貸越／83 ④ 商業手形／84
- ⑤ 支払承諾／84 ⑥ 貸付有価証券／86 ⑦ コール・ローン／86

[2] 貸付目的でみた貸出しの種類 87

- ① 事業資金融資と消費資金融資／87 ② 運転資金融資と設備資金融資／87
- ③ 短期資金融資と長期資金融資／88 ④ 担保貸付と信用貸付／88
- ⑤ 個別貸付と限度貸付・極度貸付／88
- ⑥ 単独融資と協調融資・共同融資／89 ⑦ 固有貸付と代理貸付／89

4 銀行は企業をどう見ているか.....90

- [1] 銀行による企業評価が融資を左右 90
- [2] 取引銀行における自社の位置づけを探る 94
- [3] 完璧なデータ管理が行なわれている 98

4章 借入れの段取りと必要書類のつくり方

1 借入申込みから必要書類の整備までの流れをつかむ……………104

〔1〕 借入れの準備で必要なことは何か……………104

〔2〕 借入申込みと稟議の過程はこうなっている……………106

2 融資を受けるための必要書類を用意する……………108

〔1〕 借入申込時に必要な書類は……………109

①借入申込書／109 ②会社経歴書／111

〔2〕 貸出稟議のときに必要な書類は……………111

①貸借対照表、損益計算書、決算報告書／111 ②資金計画表、
資金繰り表／111 ③利益計画書／115 ④設備計画書／115

〔3〕 貸出実行のときに必要な書類は……………116

①銀行取引約定書／116 ②担保差入証／117 ③登記簿抄本、
印鑑証明書、資格証明書／117 ④保証人関係の書類等／117
⑤不動産（根）抵当権設定契約書・火災保険契約書／117 ⑥所
有権の登記済証（権利証）／118 ⑦登記申請用委任状／118

3 資金繰り表の基礎知識として知っておくべきこと……………

120

[1] 資金繰りの科目にはどのようなものがあるか 120

[2] 収入予測の出し方は 122

- ①売上高の予測／122
- ②現金売上と売掛金回収、受取手形、手形割引の予測／123
- ③売掛金の回収予測／124
- ④受取手形取立、手形割引の予測／129
- ⑤その他の収入の予測／129

[3] 支出予測の出し方は 129

- ①仕入高の予測／130
- ②現金仕入、買掛金支払、支払手形決済の予測／130
- ③その他の支出の予測／132

[4] 資金繰り表はこうしてつくる 132

- ①資金繰り表科目を決定する／133
- ②過去の実績を調査する／133
- ③経常的な売上高、仕入高、費用を予測する／135
- ④臨時の収支予定を織り込む／136
- ⑤収入・支出額を予測して資金繰り表へ記入する／138

5 章 借入折衝の上手なすすめ方

1 取引銀行はどのように選ぶべきか

..... 142

- [1] よい銀行の条件とは 142
- [2] 取引銀行は一行か数行か 144
- [3] 主力銀行は決めておくこと 148
- [4] 取引銀行を増やしたいとき、減らしたいときは 151
- [5] 政府系金融機関から融資を受けるときは 155

2 銀行員との折衝で心すべきこと

..... 158

- [1] 貸付担当者との借入折衝のポイントとは 158
- [2] 支店長との借入折衝のポイントは 161
- [3] 支店幹部のリストを作成 163
- [4] 支店訪問はタイミングを考えて 167
- [5] ふだんからの業況報告で信頼を積み重ねる 170
- [6] 預金増強への協力はどう考えたらよいか 172

3 目的に適った資金の調達方法を考える

..... 178

[1] 決算資金の調達方法は 179

[2] 減産資金の調達方法は 180

[3] 緊急資金の借入れは 182

6 章 取引を有利に運ぶポイントあれこれ

1 借入金利はどのようにして決まるのか

..... 186

[1] 借入金利は銀行と企業との力関係で決まる 186

[2] 金利変動要因は具体的に何か 188

①金融情勢／188 ②融資企業の信用度／189 ③企業の取引ぶ

り／190 ④地域の金利情勢／193 ⑤資金の使途／193 ⑥借

入期間の長短／194 ⑦担保の程度／194 ⑧借入金額の多寡／

194 ⑨商業手形支払人の信用度／195 ⑩銀行の方針／195

2 拘束預金をどう考えたらよいか

..... 196

[1] 預金拘束の実情は 196

[2]	「預金の拘束」による実質金利の変化は	197
[3]	どのような場合に預金が拘束されるのか	201
[4]	実質金利表はこうしてつくる	202

3 金利交渉・借入枠交渉のポイント 207

[1]	金利交渉のしかた	207
[2]	借入枠の増やし方	211
[3]	金融情勢の変化と借入れのしかた	213

- ①景気上昇の初期／213
- ②景気上昇の中期／215
- ③好況の最盛期／215
- ④金融引締め前期／215
- ⑤金融引締め後期／216

4 信用保証協会の利用法 217

[1]	保証の対象は	217
[2]	保証の条件は	218
	①保証の限度／218	
	②保証料／219	
	③保証人および担保／219	
[3]	保証の申込みは	220
[4]	代位弁済と回収はこうなっている	221

5 登記簿の見方と担保評価のポイント 223

〔1〕 登記簿の見方について 223

① 表題部 / 228

② 甲区欄 / 228

③ 乙区欄 / 228

〔2〕 担保と掛目について 229

① 有価証券 / 230

② 不動産 / 230

7 章 ふれあいをますオフビジネスを

1 ある支店長の独り言 235

2 心豊かなバンカーたちの想い出 240

“主要参考文献” 245

装 幀 ● 田澤 司
トレス ● 吉野 工房
● 天日 貢

1 章

金融の潮流の把握する

1 金融情勢はどのように捉えたらよいか

〔1〕 金融の潮流を見きわめる

潮の流れに似ている金融の動き 私は最近、海の釣りに魅せられてしまった。三浦半島や、房総半島を見渡しながらの釣りは、何事にもかえがたく、こよなく楽しい。

この海釣りのさなかにいつも不思議に思うのが、潮の変化と魚の生態である。そして、この潮の流れと満ち干が、資金の流れと金融の繁閑に、たいへん似通っているように思えてならない。

金融政策は、引締めと緩和のくり返したが、その方法や背景はさまざまである。企業内で資金を担当する者としては、過去の経験をふまえて、引締め時、緩和時の対策を臨機応変のものにしてゆかねばならない。

そのためには、金融情勢の変化によって金融機関の態度がどのようにかわってゆくかを、的確に把握する必要がある。また、どのような情勢変化があったとしても資金調達に齟齬^{そご}をきたさないよう、金融の潮の流れを見きわめる目を養うことが大切となる。